

技術を翼に世界の空へ

2013

環境報告書



目次



■目次	1
■トップメッセージ	2
■経営理念	3
■事業の全体像	
会社概要	4
組織図	5
■環境への取り組み	
活動の歩み	6
環境基本理念/環境企業行動指針	7
ジャムコの事業活動と環境との関わり	8
環境保全活動の推進体制	9～10
主な取り組み	11～12
■2012（平成 24）年度の活動実績	13～18

トップメッセージ



自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します

私たちジャムコは、「自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。」を経営理念のひとつに挙げており、これに基づいて「環境基本理念」、「環境企業行動指針」を別途定め、地球環境保全活動に取り組んでおります。

2012 年度における環境側面に影響を与える大きな動きとしては、航空機器製造事業において宮城県名取市愛島台に新工場を建設し、4 月より操業を開始しました。その経済効果と新たな雇用の創出を通じて、地域社会に微力ながら貢献できればと願うとともに、環境への配慮についても怠ることなく運営してまいります。

当社では、地球環境保全の具体的な活動として、企業経営における優先課題であるエネルギー使用量の削減や廃棄物の再資源化などについて、数値目標を定めて取り組んでおります。本報告書は、当社の環境保全活動の概要とともに、2012 年度における活動の成果を「環境報告書」としてまとめたものであります。

当社の環境活動の状況をご理解頂ければ幸いです。



株式会社 ジャムコ 代表取締役社長

鈴木善久

経営理念



ジャムコ経営理念とは

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現において挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。



2005年、創立50周年を機に、創業以来代々の経営者が伝えてきた経営方針の根底にある普遍的な行動原理を再認識し、「経営理念」としてまとめました。

今後一層の繁栄を目指す上において、これまで歩んできた50年を総括し、これから進むべき道標として、この経営理念を全グループ社員が理解、共有することにより、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

初代社長から伝わる創業の精神に「士魂商才」という言葉があります。

小型機の整備事業から起業し、後に小型機を製造するまでにその技術力を高めました。これは、飛行機に対する情熱と粘り強い努力により成しえたものであり、その技術力は現在に継承され、そしてその精神は「士魂」として現在も息づいています。

「士魂」は武士としての高い倫理観、誠実で決して屈しない逞しい精神であり、この気概と技術をもって、夢の創造に挑戦し、お客様と社員の幸せ、自然と社会への貢献を目指してまいります。

事業の全体像



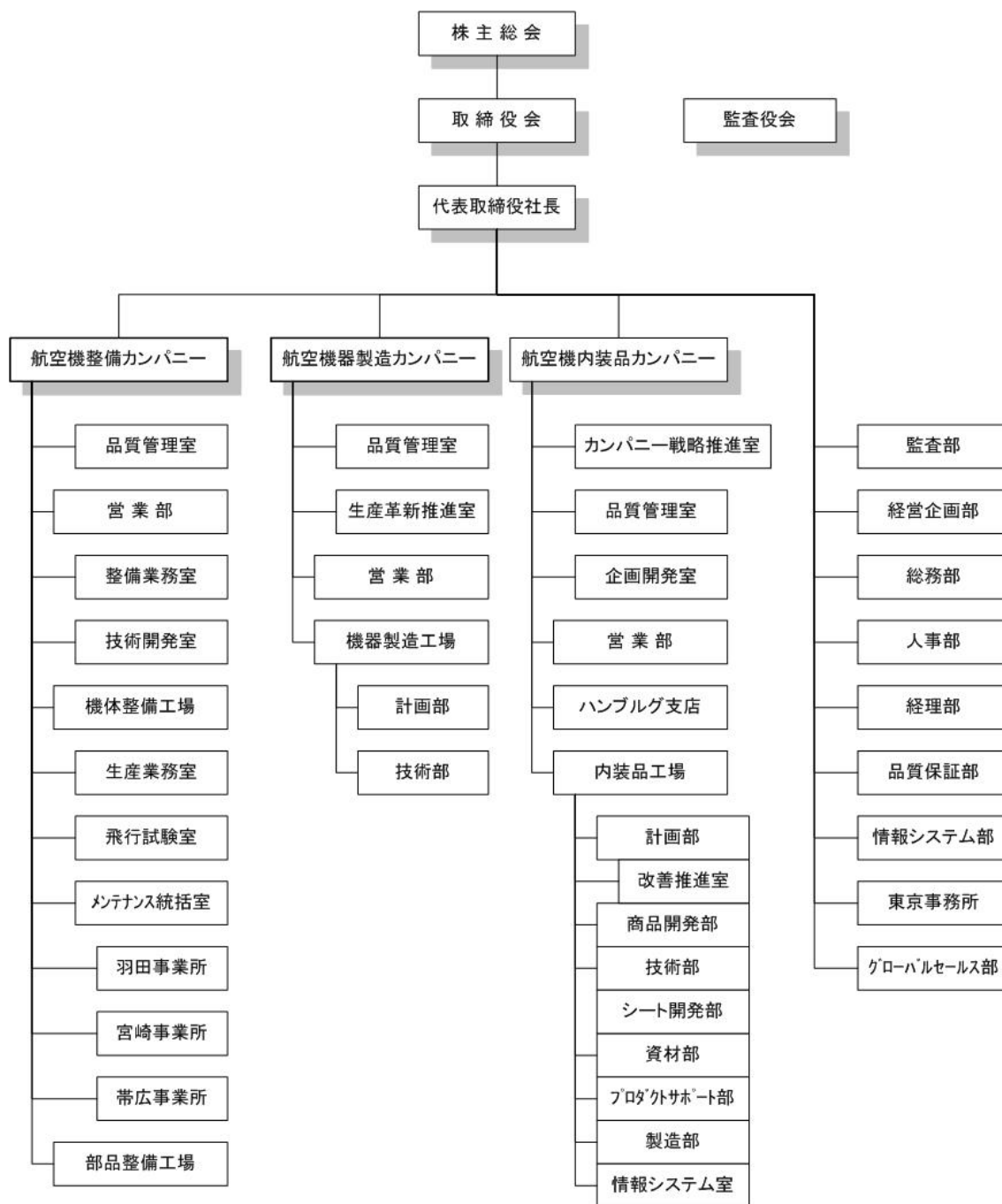
会社概要 (2013年7月1日現在)

商号	株式会社 ジャムコ JAMCO CORPORATION
本社所在地	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
設立	1955年9月 伊藤忠航空整備 株式会社設立 1970年6月 新日本航空整備 株式会社に商号変更 1988年6月 株式会社 ジャムコに商号変更
資本金	53.6億円
事業内容	<p>〈航空機内装品カンパニー〉 航空機内装品等製造関連事業 ギャレー、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造</p> <p>〈航空機器製造カンパニー〉 航空機器等製造関連事業 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造</p> <p>〈航空機整備カンパニー〉 航空機整備等関連事業 航空機及び装備品等の整備・改造</p>
代表者	代表取締役社長 鈴木 善久
従業員数	1,233名(2013年7月1日現在) 連結 2,296名(2013年3月31日現在)
主要株主	伊藤忠商事 株式会社 全日本空輸 株式会社 昭和飛行機工業 株式会社
連結子会社	株式会社 新潟ジャムコ 株式会社 宮崎ジャムコ 株式会社 ジャムコ エアロマニュファクチャリング 株式会社 徳島ジャムコ 株式会社 ジャムコ エアロテック 株式会社 ジャムコ テクニカル センター 株式会社 オレンジ ジャムコ JAMCO AMERICA, INC. JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD. JAMCO PHILIPPINES, INC.

事業の全体像



組織図 (2013年7月1日現在)



環境への取り組み



活動の歩み

当社では、1998年7月に“地球環境に関する宣言”として環境基本理念、環境企業行動指針を定めて組織的な環境保全活動の取り組みをスタートし、1999年9月に「環境規程」を制定いたしました。調布本社地区（調布サイト）が全社のさきがけとなって活動を展開し、2000年2月には審査機関「ロイド・レジスター」によるISO14001の認証を取得しました。

2001年4月には「環境規程」の全面改訂を行い、環境保全活動の全社展開を開始しました。

2010年7月には「環境業務標準（EOS：Environmental Operation Standard）」を新たに制定し、ISO14001の認証を持つ調布サイトにならい、そのほかのサイトではISO14001に準じた環境保全活動に取り組んでおり、継続的な改善活動を進めております。

- ・ 1998（平成10）年7月 地球環境問題への社長宣言
- ・ 1999（平成11）年7月 調布サイト「環境方針」の制定
- ・ 1999（平成11）年9月 「環境規程」制定
- ・ 2000（平成12）年2月 調布サイト ISO14001 認証取得
- ・ 2000（平成12）年6月 環境報告書 第1版発行
- ・ 2001（平成13）年4月 「環境規程」改訂、「環境保全規則」「環境保全業務細則」制定
- ・ 2002（平成14）年9月 各サイト「環境方針」の制定
- ・ 2006（平成18）年3月 調布サイト ISO14001：2004年版 移行審査受審・認証継続
- ・ 2010（平成22）年7月 「環境保全業務細則」にエネルギー管理等の内容を充実して「環境業務標準」を制定、移行
- ・ 2012（平成24）年3月 調布サイト ISO14001 認証更新審査受審・認証継続
(No:YKA0772809)

環境への取り組み



環境基本理念/環境企業行動指針

■ 環境基本理念 ■

人類存続のための地球環境保全は全世界の共通の願いである。

ジャムコグループは、グローバルに活動する企業として、地球環境問題を経営の最重要事項のひとつに位置付け、基本理念を“豊かさと共生できる、地球環境にやさしい企業”として企業活動を行い、地球を守り、広く社会に貢献する。

■ 環境企業行動指針 ■

(1) 自然環境保全

製品開発、生産、サービスの活動に当たっては地域及び地球の環境保全に努める。

(2) 資源の有効利用

環境負荷の少ない製品の開発及び生産・サービスにおいては資源の効率的な利用、再利用並びに環境負荷の少ない物品の利用に努める。

(3) 環境関連法規の遵守

国や地方自治体の環境法令・規則を遵守する。

更に ISO14000 シリーズに定められた国際的標準についても、目標としてその達成に努めるものとする。

(4) 環境保全体制

基本理念及びこの指針に沿って全社及び各サイトで環境方針を策定し、環境保全体制を確立して、定期的に見直し、維持、向上を図る。

(5) 環境保全活動の啓蒙、推進

基本理念及びこの指針を全ての社員、関係者に周知し、全員が理解し行動できるように教育・啓蒙活動を推進する。

(6) 環境保全活動の公開

基本理念及びこの指針を社内外に公開する。

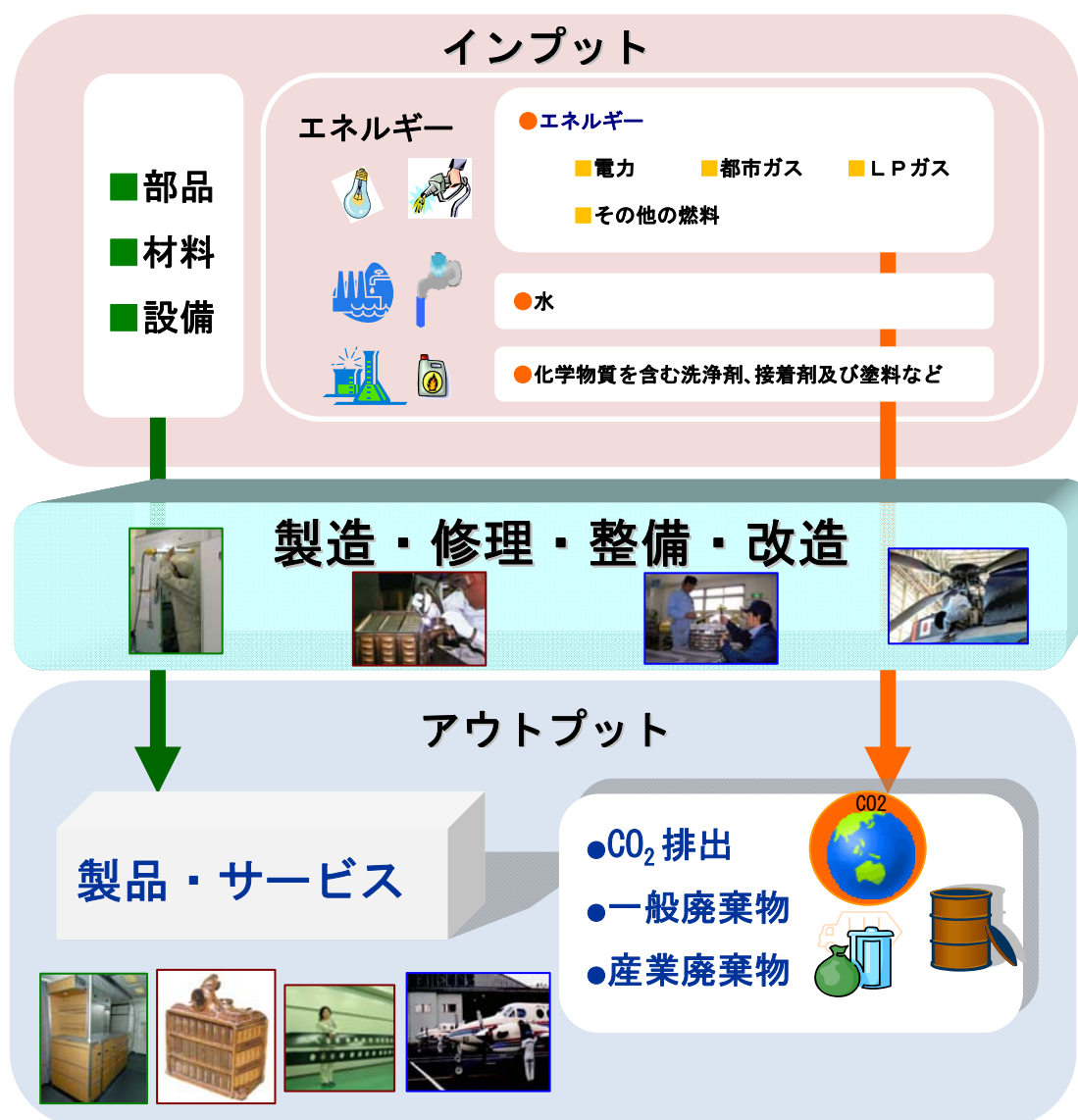
株式会社ジャムコ
代表取締役社長

環境への取り組み



ジャムコの事業活動と環境との関わり

当社では、航空機産業分野において、航空機内装品及び機器の製造・修理、航空機並びに航空機装備品の整備・改造等の事業を行っています。下図は、当社の事業活動と環境との関わりを表したものです。当社では事業を行うにあたり、多くの資源を消費し、さまざまなものを排出しています。このインプット、アウトプット両面における環境負荷を低減するために、その定量的な把握に努めています。



環境への取り組み



環境保全活動の推進体制

■1. 全社の推進体制

当社の環境保全活動は、その推進体制と環境マネジメントシステムを整えて取り組んでおります。代表取締役社長は統括責任者として環境保全活動を統括し、又、総務担当執行役員は地球環境委員会の委員長として活動を推進し、マネジメントレビューを行っております。原則として事業活動を行う地域毎に環境保全活動を一体となつて行うサイトを設け、各サイトでは、サイト環境委員会などを通じて組織的に活動を行っています。

各サイトは、「環境基本理念」、「環境企業行動指針」に基づき、それぞれの事業特性を考慮して「環境方針」を定めています。又、中長期の達成目標を環境目的とし、単年度の到達目標を環境目標として全社共通及びサイト別に各々設定し、その達成に向けた計画的な活動の推進とその振り返り、内部環境監査によるチェックなどを通じて、更なる改善に努めています。

なお、調布サイトにおいては、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムが適切に運用され、且つ、継続的な改善が行われているか、審査登録機関による定期的な審査が行われ適合性評価を受けています。



- ・立川サイト：航空機内装品カンパニー
- ・成田サイト：航空機整備カンパニー部品整備工場
- ・羽田サイト：航空機整備カンパニー（営業部、技術開発室、品質管理室、整備業務室、機体整備工場羽田事業所、部品整備工場（羽田駐在機体整備グループ））、東京事務所
- ・仙台サイト：航空機整備カンパニー機体整備工場
- ・宮崎サイト：航空機整備カンパニー機体整備工場宮崎事業所
- ・帯広サイト：航空機整備カンパニー機体整備工場帯広事業所
- ・調布サイト：本社（東京事務所を除く）、航空機器製造カンパニー、

環境への取り組み



■2. 地球環境委員会

地球環境委員会では、各サイトの活動状況、環境目的・目標の達成状況、内部環境監査の実施状況、是正処置・予防処置などの状況についてマネジメントレビューを行うとともに、法規制及び顧客要求の変更などについて報告・討議を行っています。

地球環境委員会事務局では、全社的な環境保全活動が効果的且つ効率的に運用、改善が図れるよう情報を収集し、又、社員への教育にも力を入れています。

■3. 環境監査体制

内部監査・外部審査は、環境保全活動が定められた要求事項に適合し適切に実施されているか、又、その活動の有効性は維持されているかなどについて定期若しくは臨時に確認することによって、是正、改善を図るための重要なものです。

内部環境監査チームは、社内規程で定める資格要件を満たす内部監査員により構成しています。内部環境監査は、監査計画、監査チェックシートに基づいて実施しており、管理手順と運用状況との整合性を確認するなどの実地監査に主眼を置いています。監査結果は監査毎に報告書にまとめ、又、不適合事項に対しては是正処置を求めるなど、改善につなげています。なお、内部監査結果は年度毎にまとめを行い、マネジメントレビューに反映しています。

環境への取り組み



主な取り組み

■1. 環境保全活動の推進

年度を通じた環境活動は、経営層によるマネジメントレビューによって総括され、課題については改善に向けて検討が加えられます。その検討を経て決定された重点実施事項に対して各サイトでは、環境目的／目標・実施計画・施策の策定(Plan)、施策の実践(Do)、環境目的／目標の達成状況の確認と活動結果報告(Check)、そしてマネジメントレビュー(Action)へと、PDCA サイクルを回すことで継続的に活動しています。

こうした継続的な取り組みによって、環境に関するさまざまな動きや変化に対応するとともに、役職員の環境意識を高めております。

■2. 環境影響評価及び法規制遵守の管理

事業活動において環境に影響を及ぼす環境側面を抽出し、特に改善を必要とするものや環境関連法令等で特別な管理を必要とするものに関しては、著しい環境側面としてその影響を評価しています。なお、緊急事態への対応に関して、又、排水については必要により自主基準を設けるなど、重要事項については管理策を強化しています。

■3. 化学物質の管理

化学物質などについては、環境法令や最新の材料安全データシート(MSDS)に基づいて適切に管理し、使用しています。

■4. エネルギー管理

エネルギー合理化のための管理標準(空気調和設備、照明設備等)に基づく対応、及びエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

環境への取り組み



■ 5. 廃棄物の削減と再資源化率の向上

廃棄物については、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の考えを基本に、その削減に取り組んでいます。

(1) 分別管理の徹底

材質別の分別回収を徹底し、廃棄物の再資源化(リサイクル)に取り組んでいます。

(2) 再資源化率の向上

再資源化率の向上については、廃棄物処理委託先との調査、協議により、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルなどの再資源化品目の増加に取り組んでいます。

(3) 廃棄物の適正管理

近年、排出事業者の責務が強化され、排出事業者による委託先の適正処理の確認が必要となっています。当社では、廃棄物の処理を委託している業者に対して定期的に現地調査又は情報収集を行い、処理工程の把握、 manifests 等の記録管理及び許可更新などが適正に実施されているかを確認しています。

(4) PCB 機器の適正管理

PCB(Poly Chlorinated Biphenyl:ポリ塩化ビフェニル)を含有している旧式の電気機器は、特別管理産業廃棄物として社内に専用保管庫を設置し適正に管理しています。

2012 年度の活動実績



■1. 2012 年度、省エネルギーの取り組み

<2012 年度全社共通>

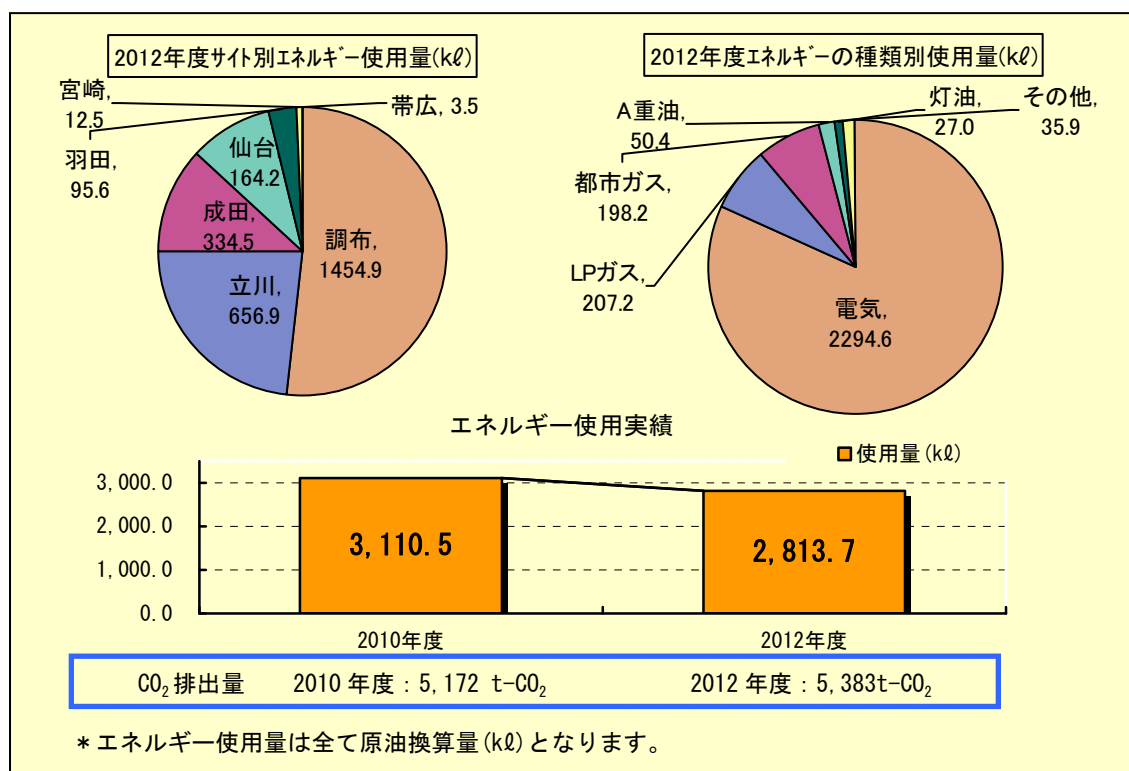
目的: エネルギー使用量を削減する。(夏季電力不足の対応を含む)

「電力、都市ガス、LP ガス、A 重油、揮発油、軽油、灯油」

目標: 2010 年度比の 2% 以上削減

* 東日本大震災の影響により 2011 年度は通常の電力使用ではなかったため、比較対象基準を 2010 年度とした。

当社では、生産・空調設備の省エネルギー化、設備の高効率稼働、空調機・照明器具・圧縮機設備のインバーター化、生産プロセスの効率化や合理化、燃料使用量の効率化などを進めており、エネルギー使用量の削減に努めています。



2012 年度のエネルギー使用量は、2010 年度比で 9.5% 削減となりました。各サイトでは、空調設備(エアコン)の運転の制御、照明機器の間引き、LED 照明への変更などを行い、エネルギー使用量の削減に努めました。(各サイトでの削減施策の実施状況は次表参照)

CO₂ 排出量については、電力会社の 2012 年度実排出係数が増加したため、2010 年度の 5,172t-CO₂ に比べ、2012 年度は、5,383t-CO₂ と増加しました。

2012 年度の活動実績



エネルギー削減対策の実施状況

対策(運用含む)項目		調布 サイト	立川 サイト	仙台 サイト	成田 サイト	羽田 サイト	宮崎 サイト	帯広 サイト
変圧器	統廃合	●						
	高効率型の設備の導入	●						
空気圧縮機	エバポレータ設置などにより 夜間運転の停止		●		●			
	吐出圧力の低減	●						
	省エネルギー型設備の導入 (インバーター式)	●			●			
空気調和設備	設定温度遵守 (夏 28℃、冬 20℃)	●	●	●	●	●	●	●
	定期的なフィルター清掃	●	●	●	●	●	●	●
	省エネルギー型設備の導入 (インバーター式)	●	●		●		●	
照明設備	こまめな消灯(休憩時等)	●	●	●	●	●	●	●
	照明器具清掃	●	●	●	●	●	●	●
	蛍光灯の間引き	●	●		●			●
	高効率型の照明設備の導入	●	●	●	●		●	
生産設備	加熱炉への断熱塗料塗布	●						
昇降設備	エレベーターの運転台数変更		●			●		
その他	未使用時の OA 機器 OFF	●	●	●	●	●	●	●
	デマンド計設置	●	●		●			
	低燃費自動車導入	●	●	●				
	自動販売機台数削減	●					●	
	業務工数低減	●	●	●	●	●	●	●

●	実施した項目
	非該当

2012 年度の活動実績



■ 2. 2012 年度、廃棄物削減の取り組み

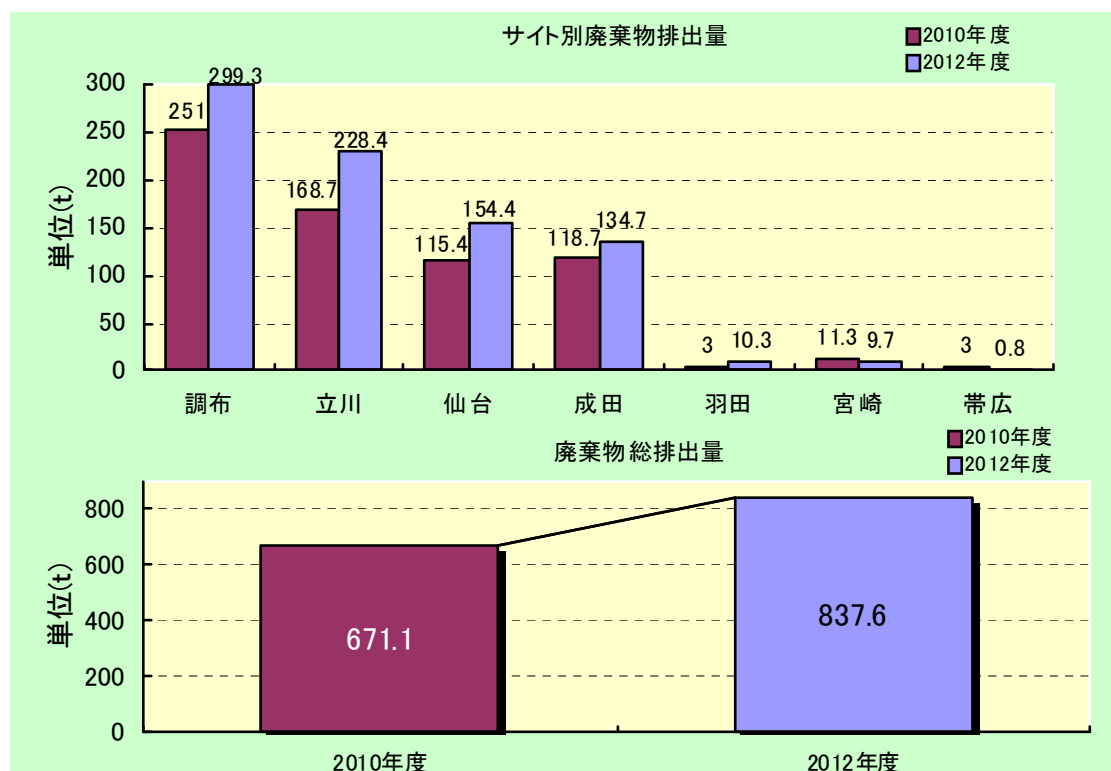
<2012 年度全社共通>

目的: 廃棄物の排出量を削減する。

目標: 2010 年度比の 2% 以上削減

* 東日本大震災の影響により 2011 年度は通常の廃棄物排出ではなかったため、比較対象基準を 2010 年度とした。

当社では、事業活動に伴って排出される廃棄物を産業廃棄物及び有価物などに分別し、廃棄物の発生抑制と、再利用、再資源化等に努めています。

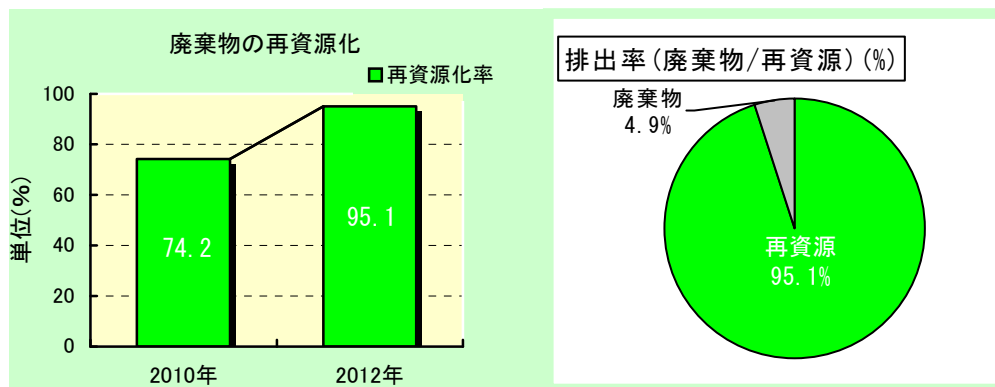


2012 年度の廃棄物排出量は 2010 年度比、全体で 24.8% 増加し、廃棄物の削減目標を達成できませんでした。その主な要因としては、調布サイト (19.2% 増) においては、生産量増加に伴い材料購入が増加し、その梱包材料による廃棄物が増加したこと、立川サイト (35.4% 増) においては、生産量の大幅な増加に伴い廃棄物が増加したこと、又、仙台サイト (33.8% 増) においては、東日本大震災の影響により発生した廃棄物処理の受入が停止していた廃棄物を 2012 年度に処理したために増加したことなどが挙げられます。

2012 年度の活動実績



廃棄物の再資源化への取り組み



2012年度の再資源化率は、2010年度の74.2%と比較し、95.1%と20.9%増加しました。各サイトにて廃棄物の分別を徹底し、廃棄物を再資源化することができました。

■3. 2012年度、その他の取り組み

00プロジェクトに参画し、CO₂濃度連続測定装置(CME: Continuous CO₂ Measuring Equipment)及び自動大気サンプリング装置(ASE: Automatic Air Sampling Equipment)の2種類の航空機搭載用大気観測装置の開発、製造並びに大気観測装置を機体に搭載するための承認取得を担当してきました。2006年度以降は、定期航空路線を利用した温室効果ガスのグローバル観測「CONTRAIL(*)」プロジェクトに参画し、航空機に搭載する観測装置の開発とそのFAA及び国土交通省航空局からの承認の取得、並びに装置の維持・整備の分野を担当しております。そしてこの度「CONTRAIL」プロジェクトは、日立環境財団と日刊工業新聞社が共催する第40回「環境賞」において、環境大臣賞・優秀賞を受賞しました。

【参考】

■環境大臣賞・優秀賞受賞について

ジャムコ HP: <http://www.jamco.co.jp/news/csr-news/1806.html>

日立財団 HP: <http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/topics/topics65.html>

■航空機による大気観測プロジェクト特別塗装機のフライト開始について

ジャムコ HP: <http://www.jamco.co.jp/news/csr-news/1287.html>

2012 年度の活動実績



<日本航空株式会社、財団法人日航財団、独立行政法人国立環境所、気象庁気象研究所、株式会社ジャムコによる共同プレスリリースより>

『航空機による大気観測プロジェクト CONTRAIL』の特別塗装機について

日本航空株式会社(以下、「JAL」)は、2012年7月25日(水)より、『航空機による大気観測プロジェクト CONTRAIL(*)』の特別塗装機によるフライトを開始します。

本プロジェクトでは、1993年より旅客機定期便による大気観測を継続してきており、2005年以降は、JAL、財団法人日航財団、独立行政法人国立環境研究所、気象庁気象研究所、株式会社ジャムコが参加する共同研究プロジェクト CONTRAIL として活動、現在は JAL のボーイング 777-200ER 型機(4機)により、JAL 路線網を活用して上空大気中の二酸化炭素濃度を測定し、地球規模での長期的な環境変動を監視する研究を推進しています。本プロジェクトでは、2011年10月までに、のべ約 6,000 フライトにおいて、世界 55 空港での 11,500 件以上の大気鉛直分布を含む、貴重なデータを取得してきております。

民間航空機で上空の二酸化炭素濃度を連続して観測するプロジェクトは世界初であることから、これらのデータは、国内外の研究者から非常に高い評価を得ており、『CONTRAIL データ』として世界中で活用され、現在の地球温暖化をはじめとする気候変動メカニズムの基礎となる地球上の炭素循環を解明する研究に活かされています。

今回、CONTRAIL の特別塗装機が日本のみならず海外の空港へも飛行することになり、私どもの環境研究への取り組みを諸外国の方々に理解していただくきっかけにしたいと願っております。

『航空機による大気観測プロジェクト CONTRAIL』は、これまで、環境省の予算を基に推進されてきております。又、JAL の『エコ・ファーストの約束 ～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～』のひとつでもあり、参加・活動する 5 者の強固なチームワークのもと、これからも上空の広範囲を定期的に飛行する航空機の特性を活かして貴重な大気データを収集・分析し、気候変動メカニズム解明の研究を通じて、地球環境保護に継続して貢献してまいります。

* CONTRAIL : Comprehensive Observation Network for Trace gases by Airliner

CONTRAIL については以下のホームページを参照ください。

<http://www.cger.nies.go.jp/contrail/>

2012 年度の活動実績



【CONTRAIL 特別塗装機の概要】

- ◆ 機材 : ボーイング 777-200ER 型機 (機番: JA707J)
(当面、特別塗装機は 1 機のみ運航)
- ◆ 運航路線 : 主に東京(羽田)とパリ・サンフランシスコ・香港を結ぶ路線
- ◆ 運航期間 : 2012 年 7 月 25 日(水) ~



【特別塗装部分のイメージ図】



■ ホームページの公開

環境報告書はホームページにて公開しています。

<http://www.jamco.co.jp/j/j-profile/eco1.html>



株式会社 ジャムコ

〒181-8571

東京都三鷹市大沢六丁目 11 番 25 号

TEL 0422-31-9111(代表) FAX 0422-31-6111

ホームページ <http://www.jamco.co.jp/>